

第3回目

ハートとのシンクロ

～ハートから観る～

エネルギーセンター

今回はハートとitの連動です。

ハートは最初の説明で3タイプあるという解説をしました。

- 1 知的タイプ
- 2 ハートタイプ
- 3 実感タイプ

とザックリとわけました。

今日は2番目のハートタイプです。

なぜハートなのか？

人間には様々なセンターがあるとされています。

ヨガや神智学でいえば7つ。

それぞれには働きや特色があります。

下から言えば・・・

- ・ムーラーダーラ・チャクラ
- ・スワーディシュターナ・チャクラ
- ・マニプーラ・チャクラ
- ・アナーハタ・チャクラ
- ・ヴィシュッダ・チャクラ
- ・アージュニャー・チャクラ
- ・サハスラーラ

とされていて、今回は胸のアナーハタ・チャクラに相当します。

なぜ、アナーハタ・チャクラ、つまりハートのセンターなのかというと、胸の中樞が最も人間の中心とされているからです。

知と感情のギャップ

実際に人間は知的な能力、例えば火星にまでロケットを飛ばす科学力があります。

つまり、知的能力は昔、例えば日本でいえば江戸時代。

海外で言えばローマ帝国の時代とかと比較して飛躍的にアップしているわけです。

しかし、感情的にはどうでしょう？

つまりハートです。

火星にまでロケットを飛ばせるNASAの科学者が家では奥さんとしようもない事でケンカとかしてしまうわけです。

また、私達は物語が好きです。

時代劇などもそうですし、もっと前、例えばエジプトのクレオパトラの物語なんかは紀元前69年ですよ。

その頃の間人模様、つまり感情的な動きと一体化出来る、つまり、その頃から感情はたいして進化していないとも言えます。

このように、感情やハートは私たち人間にとって、中心的なものと言えるでしょう。

濃い場所 薄い場所

また、実は全てはitだという話を簡単にしました。

ここの部分は少し難解なので、後ほどの回で詳しくやっていきます。

とにかく、ここではitというのは全てであるとおいてください。

しかしです。

実はそのitの表れが・・・

・濃い場所

・薄い場所

というのが存在します。

厳密に言えば・・・

「私たち人間にとって、そう感じられる、思える」

というのが正確な表現ではありますが、とりあえず・・・

「濃い場所と薄い場所」

があると思っておいてください。

例えば、日本という概念がありますよね？

日本が濃い場所？

私たち日本人はどこにいても日本にいるわけです。

日本の領土内ならば。

しかし、通常は・・・

「日本だな・・・」

とか感じないと思います。

それが、例えば・・・

- ・富士山を見た時
- ・雷門を見た時
- ・味噌汁を飲んだ時
- ・梅干しを食べた時
- ・京都へ行った時

などは・・・

「なんか日本だな・・・」

と感じると思います。

つまり、日本にも・・・

「濃い場所と薄い場所」

「強く表れている部分とそうでない部分」

というのが存在するのがわかるでしょう。

これと同じようにitにおいても・・・

「濃い場所と薄い場所」

が存在します。

では、どこに濃く、強く表れているのでしょうか？

それは「人」です。

また・・・

「ハート」

です。

ハートが開く時

このハートの性質として色々ありますが・・・

「itとシンクロしやすい」

「思考を超えやすい」

というのがあげられます。

itとシンクロしやすいというのは、ハートの純粋な性質そのものがitと言ってもいいわけです。

また、思考を超えるというのは、私たちの問題の大半が・・・

- ・これは正しくてあれは間違い
- ・これは好きだけどあれは嫌い
- ・こうなっていないとダメ
- ・こうあるべき
- ・なんで○○は○○なんだろう、私は違うと思う

など、思考での問題が大半です。

ハートが開いていくと、実はこの思考の枠から離れ始めます。

「it」への扉が開き始めるわけです。

その時には、今まで見ていた世界や感じられていた世界が、また、別に見え方や味わい方になるでしょう。

ここの部分は音声ガイダンスを聞きながら、少しずつ練習してってください。